

# 広島県政白書ニュース

2017年3月1日 発行NO.3

## 第1回団体要請懇談行う

2月21日当日都合のついた民主的団体11団体と、村上博実行委員長と事務局員は、県政白書作成の取り組みと、白書内容について、懇談しました。事務局として、各団体の取組み課題と、白書作成の課題を一定程度整理することが出来ました。今回県政白書作成の各論の項目として、30項目ある中13項目についてめどがつかしました。

### 事務局体制

副実行委員長に県労連議長 八幡直美さんに、川后さんが事務局員が決定。

### 県政白書作成の具体化するために 研究者・専門家との懇談会

日時：3月5日 13：30～

場所：広島自治体問題研究所又は

参加者：要請中

### 広島未来チャレンジビジョン出前説明会

日時：3月15日 13：30から15：00

場所：ゆいぽーと3F

説明者：広島県総務局経営企画チーム

定員：30名 要予約

### 第2回事務局会議

同上で、15：00から

### 第2回実行委員会

3月24日

### 湯崎県政8年を総括懇談会

4月中旬の予定

### 広島県政白書作成実行委員会

事務局：広島自治体問題研究所

<http://kyodo-support.com/jitiken/>

## I.今回県政白書作成の各論13項目 についてめど

- 1.非核都市宣言アンケートのまとめ
- 2.核兵器廃絶の意見書採択と地方自治体の役割
- 3.広島県経済動向と人口減少の関係を明らかにする
- 4.学童保育の運営の変化
- 5.広島県医療計画
- 6.子どもの医療費問題
- 7.広島県国民健康保険の広域化現状と課題と県の役割
- 8.中小企業・中小業者育成振興条例
- 9.公契約条例について
- 10.少人数教育
- 11.教育の管理統制の問題
- 12.高等学校教育統廃合
- 13.私学問題について

## II.団体要請懇談の今後の課題

今回の懇談で時間や、連絡不十分で懇談できなかった課題として、社会保障分野の各論、保育問題、県生健会、災対連と行政問題、広障連、県北自治研、県政研究会、研究者懇談などについて、今後懇談を行って、行きたいと思います。

次回の懇談のご協力をお願いいたします。

## III.懇談から出た課題

1. 『平成の大合併を検証する』  
「連携中枢都市構想」  
をテーマとする懇談会

今後、この会議の中心課題を提起し参加予定者に示し会議を行う。

2. 広島県の危険個所、防災行政について、防災担当者と意見を交換したい。  
出前講座を広島県にお願いする  
4月中旬以降

## IV.懇談会に出た主なこと

- ①子ども・保育新制度の下で、県内保育所の運営が、公営から民間へ、公立保育園の認定子ども園化の流れが出ている。自治体の責任逃れは許せない。
- ②8.20以降の広島県災対連の活動や、危険個所が3万か所以上ある県土に生活する県民として、どう認識していのかとくらしを守ればいいのか。
- ③広島県内の市民と野党共闘の取り組みの現状評価はいかに。
- ④新制度で学童保育に6年生までの保育出来るようになって、建て替え・建て増しが必要だが、県は補助金を市町に下しているのか。
- ⑤2018年4月から医療計画が動き出す。その影響を介護分野から見れば、地域包括ケアシステムの確立が出来るか、医療費抑制からは国保問題の県単位化に現れる。このトライアングるをどう紹介するか。
- ⑥地方自治体の医療機関の再編が進んでいる。神石高原町の診療所問題など

進んでいる。府中市の厚生病院問題は、公的病院との統合がある。

- ⑦開業医にとって、マイナンバーの問題は、管理責任が問われることです。
- ⑧民商が中心となり、広島国保改善運動連絡会（2016年11月29日（火）広島市東区で結成集會に5団体と6地域）を立ち上げた。
- ⑨広島県の教育は、人材養成で、役に立つ者の教育としている。これは大きな問題で、本来教育は、人格形成であるべきだ。施策として、少人数教育に背を向けている、管理と統制で子ども・教員を縛りつけた教育を行っていることが大きな問題です。

## 3. 今後の大筋の日程案は

広島県知事選挙が11月にあり、それに向けての逆算方式で立ててみました。

3月 県政懇談会

4月 分野別会議

5月 執筆者確定・執筆者会議

6月 原稿締切・調整 校正

8月初旬 印刷会社へ入稿

8月末 発行

## 第2回実行委員会

日時：3月24日（金）

18:30~20:30

場所：広島自治体問題研究所

課題：1. 広島県政白書分担

2. 今後の進め方について

3. スケジュール